
桃太郎 二

モントリオール吉田

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

桃太郎 二

【Nコード】

N5956Q

【作者名】

モントリオール吉田

【あらすじ】

桃太郎出立の巻!!!!

「おつかあ、腹減った」

一ヶ月足らずで小屋の天井すれすれまで成長した人間と言ってよいのか決めかねるものは、口をきいたかと思うと、このように飯を催促するのである。この異様な息子に夫婦は啞然とした。啞然としすぎて、名前をつけることすら忘れてしまったほどである。それに疑問があつた。この子は本当に私たちの子なのであるうか。ケタ違いの成長ぶり、達観しきつたような目付き、馬程度のものであれば腕の一振りで倒せそうな屈強な体つき、これらを鑑みるとどうしても妖の者に思えて仕方が無いのである。

「はいはい、今すぐに」

とお婆さんは言ったものの食べさせるべきものは残つてはいない。なぜなら、初めのうちは若返つたのもあつて精力的に雑多な仕事を引き受けることで金銭の類を手に入れることができた夫婦であつたが、どうしたことがみるみるうちに彼らの体は元の老弱に変貌したのである。こうなつてしまえば飯のあてが無くなつても仕方がない。最近では借金をしてまでこの恐ろしく食い物を摂取する化物じみた息子につくさなければならぬのだ。生まれて一ヶ月も立たない息子に頭があがらないのは、さながら妖怪じみた彼がただただ恐ろしかったためである。彼らは一人息子と飯をつなぐ媒介人に成り果ててしまつていた。

そんな状態が続いたある日のことである。

「おかあ、今の生活、苦しいか」 息子が唐突に飯関係以外のことを口にしたので夫婦はしばらく顔を見合わせて、ほぼ同時に息子の方を向き、そしてほぼ同時に同じことを言うのである。

「苦しいに決まつている」事実、もう彼らには金を借りるあてが無

く、首がまわらない状況だった。

「そうか。ならば鬼退治をして、宝をぶんどってこよう」 彼は何の感情の起伏もない顔でそう言った。一方夫婦はその単語、鬼、にさえ怯え、やめとけやめとけ、と引きつった顔つきで言った。

「いくらお前が山のように頑強な肉体を持つていたとしても、人間が鬼に勝てるわけがない。鬼退治に行くなんて言うのはやめてくれ、お前は私たちの大切な一人息子なのだ。鬼はとも数が多いからお前など四肢を驚掴みにされて五つに分断されるに違いない」とお爺さんは言った。その言葉にむっとしたのは息子である。

「何を言うか、私のこの力こぶを見よ」 そう言つて息子は腕を振りあげて筋肉を集中させると、岩山のような肉はたちまち盛り上がった、それだけで一つの生き物のように流動した。

「こんなこともできるぞ」 息子は腕を地面向かって叩きつけた。すると、夫婦の小屋がまず大きく揺れたかと思うと、遙か遠くに見える山がぐらぐらと乳歯のとれるように揺れたのである。彼の力の強大さは明らかであり、揺るがないと思われた。他方、夫婦の価値基準は彼の力を目にして揺れに揺れた。もしやすると彼の力をもつてすれば鬼など赤子の首をひねるように、朝飯前かもしれない、そう思った夫婦は彼の力を確信したのと、しばらく息子の世話をしながらも済むことから鬼討伐の願いを聞き入れたのである。

お婆さんとお爺さんは討伐に単身向かう息子に名前を与えようと思った。無名のまま鬼を討伐しても何の名誉にもならないと考えたためである。息子が討伐に出かける前の晩、彼らは息子と呼んだ。

「お前に名をやろう」 お爺さんは神妙な顔つきで言った。名前を授けるなどという、慣習や儀式など経験のない夫婦だったから、この時までにかなり骨を折った。息子はフムと関心を持ち、父親の前にどかりと腰をおろし胡座をかいた。お爺さんは彼の横柄なのにたじろいだ、気をとりなおして言った。

「お前の名は、桃太郎だ。仏様が桃を通してお前を私たちに授けて

くださったからだ。つまり、お前は仏の使者、お前の今から成すことは仏の命でもある。慎んでこの名を用いるがよい」

「ああ、わかつている」桃太郎は無表情で言った。桃太郎は明朝、お爺さんが戦の跡で拾った刀を腰にさげて家を出た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5956q/>

桃太郎 二

2011年10月8日17時13分発行